

「目標は持っていた方がいいのか？」

2017年6月17日(土)

カフェモーツアルトアトリエ (仙台市)

参加：16名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・仙台ツアーの一プログラムとして、初参加者7名を含む総勢16名で、主に、目標が要る・要らない場合、夢と目標の違いについて考え、対話をした。

2. 対話：

(0) ミニさん「目標を持っていた方がいいのか？」を読んでどう思うか？～参加者の対話前の意見

- ・対話前に目標について、①持っていた方がいいか、②持たなくてもいいか、③分からないか、3択で意見を訊いたところ、①6名、②2名、③4名、という結果であった。

(1) 持たない方がいいと考える理由

- ・目標を持っていないといけないというように何か押しつけられているような圧力を感じる。それに、目標は時期に応じて動いて（変わって）いくものではないか。
- ・会社で自分の成果目標を立てる際に圧力を感じる。自分が決めていない会社の目標を踏まえて、自分の人生の目標が何で、そのために会社で何をやるか、やれるかと問われ、答えに窮してしまう。
- 人生の目標は個人のためにあり、会社での個人成果目標は会社の目標に合わせて立てた方がいい。
- ・目標に辿り着けなかったらそれまでの過程が無駄で失敗ということになってしまう。結果だけを見ると目標はない方がいいのかもしれない。

(2) 分からないと考える理由

- ・持つ方がいいか持たない方がいいかは、その場面で変わるのではないか。

(3) どのようなときに目標が要るのか？

- ・何か嫌な事柄に直面したときに目標が要るのではないか。例えば希望する職業に就くための大学受験。
- ・例えば、走ることを考えると①とりあえず走る、②あそこの煙突まで走る、の2択においては、煙突は目印となる。目標は、嫌なことや苦しいことに対峙したときにあった方がいいのではないか。

(4) 目標を持つと輝いて見える？

- ・現在大学院生の立場だが、他の仲間の大学院生の中でも目標のある人達は輝いて見える。それは目標に向かって努力をしているからだと思う。目標がなくとも努力できるのか。それに比べて、自分は色々多趣味ではあるが、遠くの目標ではなく、目の前の2択を常に選んできている。
- ・例えば、生物研究者がただ自分のやりたいことだけを目標もなく研究していたら、ちょっと嫌である。
- ・目標を持っていること自体を考えてみると、目標を持つことでその人の価値が上がって見える。
- それは、がんばる（努力している）ことが輝いて見え、その人の価値が上がって見えるからである。

(5) 思考実験1～他者の視点

- ・例えば、日々笑うことを目標にしている人がいるとして、日々遊んでいる生活を続けていても、その人は輝いて見えるのか。「楽しく過ごすことが輝いて見える」ことには何か違和感がある。やはりそこには第三者から評価される観点があるはずである。
- ・目標を持つということが他人の視点に意識が向いているのではないか。
- ・がんばらないことは目標になるか。笑うことや楽しむことも気の持ちようで目標になる。ミニさんのジャイアンのように、音楽を楽しむ場面では、ときにがんばらずに無心でそのことを楽しんでいる人が輝いて見える場合がある。

(6) 思考実験2

- ・例えば、もっと単純で素朴な目標として「この夏までに3キロ痩せる」という目標を考えると、目標を持っていないということは墮落を意味するのか。そうはならないのではないか。
- ・持つということを考えてみる。走る事例で考えた単純な目印という意味であればそれに縛られずに自分が主体を保っていると思えるが、逆に、目標が自分にがんばりを強いて縛るようであれば自分はそれに従属し従っているように思える。

(7) 目標 vs 夢

- ・目標と夢はどう違うのか。夢はより抽象的であり、目標はより具体的である。例えば、夢は人類が幸せになることであり、目標はその夢を実現するための手段となる。
- そういう意味から、全ての人の夢はその人が幸せになることである。例えば、好きな彼女がいて、その彼女に告白できない、でも彼女を好きであり続けるという状況なら、仮に自分にはその彼女と付き合う資格がないと考えるかもしれないが、その場合でもその人は彼女と付き合いたくない訳ではないはず。
- 本当にそうか。もう生きる意欲がなくなり自殺したい人にもその人が幸せになることが夢と言えるか。
- 自殺したい人であっても、このまま生きていたら幸せになれないから自殺したいのであって、その人が幸せになりたくない訳ではないはずである。
- ・目標を持った？と言われると強制を感じてしまうのは、目標は社会的評価が付いて回るからである。
- 一方で、夢であれば持った方がいいと思うし、それは夢が自発的に感じるのではないか。
- 夢であっても、それが押し付けであれば、目標に寄ってくる。
- ・目標はその時々のものである。時系列で見ると、次々に更新して行くものであり、時期に応じて再設定をしていけばいい。

(8) これまでに言い残したこと～参加者の対話後の意見

- ・目標はその時々のものである。時系列で見ると、次々に更新して行き、その時期に応じて再設定をしていけばいい。
- ・今までの対話で出た人生における目標はどうしても持たなくてはならないという感覚を抱くので、ない方がいいのではないか。
- ・最後にもう一度目標を①持っていた方がいいか、②持たなくてもいいか、③分からないか、3択で意見を訊いたところ、①5名、②0名、③9名、となり、分からない人が増えた結果となった。

3. まとめ：

- ・自分の目標に他者の視点が入り込んでいるとの指摘はテーマ提起者にとって一つの発見であったが、時間切れで深く掘り下げることができなかった。次の機会に掘り下げたい。

以上